

令和 6 年度 第 2 回勝山市総合行政審議会
議事録

日時：令和 6 年 11 月 7 日（木） 19：00～

場所：勝山市役所 3 階 第 1 会議室

1. 開会

会長あいさつ

2. 議事

（1）第 2 期勝山市地方創生総合戦略 進捗状況について

4 つの「守る」子育て・教育

政策目標 1 安心して結婚・出産・子育てができるまち

委員：未達成になっている指標が多いが、原因の分析やニーズの把握はしているか。

事務局 まだ具体的な方策は決まっていない。今後は達成に向けて分析していく必要があると考えている。

委員：子育て世帯にニーズを聞くのもいいが、子育てを終了した世帯に聞くのもよい。個人的には子育てにかかるお金のこと、資産形成やライフプランの立て方について学びたい。例えば保育園に入った後、どのような働き方をするのかなど、夫婦間でライフプランを共有すると、今後の子育てに関する理解が高まるので良いと思う。

委員：アンケートでの市民意識を指標にしたことについては、少し違ったかもしれない。満足度を 5 段階で聞くと、当事者ではない人が「どちらともいえない」と選択することがほとんどで、欲しいデータが取れない。別のアンケートで拾っていくとよいと思う。

No.25 結婚・出産・子育て期にわたる切れ目のない支援の実施 について

委員：不妊治療の助成が拡大されたことは良いが、周知されていない状態だと思う。もっと周知されたら治療する人も増える。

No.27 子育て家庭への支援の実施 について

委員：子育て世帯への政策は充実していると思う。幼児教育に携わるこども園や保育園の先生方には、どのようなニーズがあるのか。そういったところの充実も必要だと思う。先生方へのアンケートも取るとよいのではないか。

政策目標 2 新しい時代を生き抜く力を育むまち

意見なし

政策目標 3 教育連携を通して社会で活躍できる人材を育むまち

No.37 県立大学と市内小中高校との連携体制の構築 について

委員：恐竜学部との連携については、出口戦略が重要だと思う。学生が卒業して働く場所が勝山市にあるとよいが、職の確保はあるか。

事務局：定住していただくことが必要だと思っている。大学でどのようなことを学ぶのか確認し、商工文化課と連携しながら地元企業に就職していただける政策に取り組んでいきたい。

委員：出口がないと安心して入れない。入学してから勝山に定住までの流れがあると良いと思う。

No.35 高等教育機関等を誘致 について

委員：恐竜学部はおそらく定員に達するし、恐竜好きな人は全国にいて、恐竜学部への応募者は多い。学生に市内に住んでもらうための助成金があるが、まずは受験生に知ってもらうことが必要だと思う。県立大学の受験者用のホームページに掲載してもらうなど、県立大学と連携すると受験者が使いやすと思う。県立大学にとっても重要なことなので、リンクはすぐに貼ってもらえると思う。出口政策については、大学としても心配しているところで、できたら勝山で定住・就職していただきたい。恐竜学部と相談・連携し、キャリアセンターとも協議して進めていただけるとよい。

事務局：恐竜学部生への助成については、まだ予算化されていないのでホームページに掲載していない。恐竜学部のオープンカレッジには市職員が参加し、希望者や保護者に対して勝山の情報や助成について紹介した。正式に予算化されたら、大学と連携し周知に努めていきたい。

委員：引っ越しや家賃補助は必要だと思うが、1年次に松岡キャンパスで講義がある学生は、2年次以降を踏まえて住まいを決めるのだろうか。

委員：県立大学は小浜やあわらなどキャンパスが各地に散らばっている。一般教養は松岡キャンパスでやっているの、1年生の時は永平寺で暮らし、2年生から引っ越しする人が多い。おそらく恐竜学部もそのようになるのではないかと思う。

委員：通えない距離ではないので、そうすると便利な松岡から離れない人が多いのではないか。制度をアピールして最初から住んでもらったほうが良い。

委員：最初から勝山を拠点にという人もいるかもしれない。

委員：あわらキャンパスと松岡キャンパスの間にはバスがある。勝山との間にバスがある

と、最初から住居を勝山に選ぶ人も増えるかもしれない。

4つの「守る」福祉・健康

政策目標1 いくつになっても元気で暮らせるまち

No.38 良き生活習慣の実践に向けた普及啓発の実施 について

委員：健康ポイントラリーは定期的に行う運動教室のことか。

健康体育課長：期間を設けて、その中で開催する健康教室や運動について参加した人にポイントを付与するものである。

委員：参加率を上げるには、個人で好きな時にチャレンジできるとよいと思う。例えば、歩数計アプリと提携して、自分以外の参加者がどれくらい歩いているのかが見えたり、歩数によって商品があったりするとやる気が出る。私が知っているウォーキングが盛んに行われている街ではそういったことがされている。雨の日はジオアリーナで歩いてももらえるようにすれば、利用率も上がる。ぜひアプリの活用を検討してほしい。

健康体育課長：アプリの導入については検討しているところで、参考にさせていただきたい。

政策目標2 スポーツを楽しむ健康な心身を育むまち

No.45 市民がスポーツを気軽に親しめる環境の充実 について

委員：ジオアリーナに勤めていたことがあったが、トレーニングルームは年間1万円で使用でき、民間のトレーニングジムと比べて非常にお得な施設だと思うが利用者が増えない印象がある。安価で利用できることについて広報でPR・発信してはどうか。

健康体育課長：トレーニングルームは1日50～60人の利用があり、日中は高齢者が中心で、夜間は若い方が多い。特に夜間は多くの方が来られており、機械の順番待ちをしていることも多いそう。トレーニングルームを利用するには講習会が必要で、かなり多くの方が講習会を受けているが、続けて利用している人は少ない。現在、破格の安さで利用できるの、その辺はもっとPRしていきたい。機械の数は限りがあるので、あまりたくさん来られると困るが、その辺も考えてPRしたい。

委員：機械を増やすことはできないのか。

健康体育課長：スペース的には民間のトレーニングジムに比べるとまだ余裕があるので、検討していきたい。

委員：私も講習会の後になかなか行けていない。講習会には人が多くて、見えなかったり分からなかったことがあった。常にトレーナーがいると聞けるので良いと思うが、どうか。

健康体育課長：インストラクターは市の職員で、土曜の午前中には常駐している。

委員：機械の使い方などが貼ってあると分かりやすく良いと思う。

委員：日中には高齢者が多いと聞いたが、高齢者が基礎体力をつけて、介護や寝たきりの予防となるのはとても良いと思う。そういった目的で老人会へPRするのも良いのではないか。

健康体育課長：おっしゃる通りで、市としても目指すべきところだと思う。そういったところを目指してやっていきたい。

委員：体育施設の管理適正について、B&Gの空調が管理されておらず、夏場は厳しかった。夏は暑さが厳しいので使いやすくしていただけると助かる。

健康体育課長：利用者からそういったお声は多いので、検討していきたい。

No.43 気軽に参加できるスポーツ教室および大会の実施 について

委員：クロカンマラソンに参加しているが、クーポンの利用期限が当日であることが多い。結局利用できないことがあるので、利用期限を延ばしていただけると助かる。観光客の方には良いと思うが、勝山をまわっていただく良い方法があるといい。

健康体育課長：クーポン券については事業者と相談しながら使い勝手を良くしていきたい。

政策目標 3 住み慣れた地域で誰もが安心して暮らせるまち

No.48 高齢者介護体制の充実 について

委員：福井県版エンディングノートの配布と記載があるが、このノートはホームページからダウンロードできるのか。

健康体育課長：ホームページからのダウンロードはできない。冊子の配布のみである。

委員：自分で買うとなると1,500円ほどするので、もし著作権がないのであればダウンロードできるとよいと思った。

事務局：配布したエンディングノートは県の冊子であり、配布場所が県のホームページに掲載されていた。ダウンロードについても県との相談になると思う。

4つの「守る」産業・経済

政策目標 1 多くの観光客が訪れる豊かで活力あるまち

No.51 体験型・着地型観光プログラムの開発 について

委員：恐竜博物館が閉館していたのは大きな要因だったと思う。現在は、日中に恐竜博物館に来て、新幹線で金沢へ移動するというパターンができていると思う。インバウンドを考えた時、宿泊してもらうのは重要だと思う。県内でも、永平寺や東尋坊、一乗谷など大きな観光地があるので、それを周遊するには二次交通が大事である。海外旅行に行

ったりすると、田舎のワイナリーの見学など、自力では行けないような所にツアーが組まれていることがある。慣れない海外でそういったものがあると便利だと思う。日本でも可能だと思うので、民間企業と連携して、マイクロバスで周れるようなツアーを組めたら良い。全部を勝山で完結するのではなく、もっと広げて取り組めるとよいと思う。

委員：東京でいう鳩バスのような、観光ルートのモデルコースがあるとよい。市内や県内のマップがあると滞在しやすい。

商工文化課長：道の駅で大福交通がロンドンバスをしていたが、あのようなことが広がると良い。宿泊については、恐竜ルームなど魅力のある宿泊施設の整備に取り組んでいるところである。

政策目標 2 多様な働き方を選べるまち

No.57 企業誘致と合わせた U・I ターン者の増 について

No.58 U・I ターン者の住まいや仕事探しに向けた住環境の支援 について

委員：UI ターン施策について、私の会社でも市外県外からの採用者が増えてきた。外国の方もいる。外国人留学生の採用に力を入れている企業もあり、採用者では定住する意思のもとで就職する人もでてきた。しかし、勝山の UI ターン助成は、外国人は永住権がある人に限ると言われた。技能実習生については仕方ないが、長くいる意思のある方にはこの制約をなくしてもらえないか。また、住居の問題もあり、市営住宅には単身者が入れないので、若者の単身者が安く入居できるアパートが他にない。住環境の問題で内定を辞退する人も出てきている。空き家バンクを活用してシェアハウスとしての寮を検討しているが、他の企業も同じ課題があると思う。住環境の整備は大切だと思う。

商工文化課長：UI ターンの補助金を打ち出してはいるが、他市との競合もあり、必要性については課内で協議しているところである。

営繕課長：市営住宅は公営住宅法に基づくので基本的には単身入居はできない。空き家バンクはより利用しやすいよう考えていきたい。シェアハウスの利用についても考えていきたい。

委員：企業は採用時に市の助成があることを大々的に言っているので、ぜひ継続していただきたい。

委員：助成はあった方がよい。他の自治体との競合というよりは、東京都との取り合いになると思う。子育てのしやすさなど、別の手厚さの PR が必要だと思う。

委員：会社としてはもっと若い世代を採用しており、子育て支援についてはまだ早いと思うので、学生くらいの世代にうれしい助成があるとよい。

委員：U ターンが増えないのは、若い世代が住みやすいと言えないからではないか。若い人に魅力のある街にしていけないと、出て行った人は戻ってくれない。若い人が交流できるしくみや興味・関心でつながれるしくみがあると、U ターンには良いのではないか。そういった工夫はいると思う。

委員：県外から子どもがテレワークで帰ってきた人がいる。テレワークができる会社で、奥さんが福井の人であったそう。

商工文化課長：様々なケースが出てきている。補助制度の説明はやってきたが、もう一步踏み込んで求人や住居の情報をもって説明会に望みたいと思う。

委員：住居については勝山は魅力的だと思う。庭付きでこの価格で建てられるのは都会の人からすると魅力的である。家で BBQ ができるのは都会では当たり前ではない。そういったところを提示して案内するのは良いと思う。

政策目標 3 事業者の活力あふれるまち

No.59 デジタル技術の活用を支援 について

事前質問：令和 5 年度に勝山商工会議所でデジタル技術導入のためのセミナー開催及び県補助金の案内を行ったが、DX セミナーは難しいという意見を受け、より身近な SNS 活用から始めるセミナーの開催とあるが、令和 6 年度にはどのようなデジタル技術導入セミナーを実施したのかご教授願いたい。

商工文化課長：DX 個別相談会という形で、なんでも相談に来てくださいといった形の相談会を実施した。残念ながら各回 1 名の参加であった。

委員：参加人数が少ないので、開催した意味がないと思った。セミナーより相談会というイメージか。相談会の後につながったことはあるか。

商工文化課長：個人事業主がInstagramやXの使い方を勉強するために来たと聞いている。

委員：企業規模によっては取組みの仕方が変わってくると思うので、それをもう少し掘り下げた方がよいと思う。世の中、DX とよく言っているがそれほど広がっていないだろうと思う。DX を導入すると投資が必要だとか、費用がかかるという印象を持つことからハードルが高くなっていると思われるので、そうではなく少しハードルを低くしてサポートしてあげることが必要だと思う。

商工文化課長：デジタルに関わらず考えているのは、今後、相談会に来てくださいというやり方ではなく、チームを組んで事業所等に赴いて話を聞くというやり方を考えている。

委員：実際に SNS を使ってどのような効果があったのかを検証してはどうか。例えば勝山市とタイアップして取り組むと、こうしたことができるようになった等を HP で紹介するともっと PR できると思う。相談会だけではイメージしづらいこともあるので、具体的な事例を紹介するのが良いと思う。

商工文化課長：例を教えるのもやり方の一つだと思う。事業者の方も必要性を感じていない人が多い。こちらから赴いてプッシュ型、伴走型を考えていく必要がある。

委員：郵便料が高くなるのでダイレクトメールから SNS への移行を考えている人がいる。

委員：市として、事業者への DX に関するヒアリングはしたことがあるのか。

商工文化課長：そういったことは商工会議所が相談業をしており、市が踏み込んでやったことはない。

委員：ニーズが分かれば効果的に事業ができると思うので、ぜひお願いしたい。

No.63 飲食事業者のニーズに応じた支援の実施 について

委員：実際どのようなところが出店に活用できるスペースなのか一覧があれば、きっかけになると思う。

商工文化課長：市の空き家バンクや商工会議所の空き店舗情報があるが、全て掲載されているわけではない。情報の掘り起こしが必要だと思う。

| | |-----------------------| | 政策目標 4 活力ある農林水産業が続くまち | |-----------------------|

意見なし

3. 閉会